

むらさききそう

10月号

(住所) 西東京市南町 6-9-37

(電話) 042-462-2811

カラー版はホームページで

URL <http://www.nishitokyo.ed.jp/j-tanashi/>

コロナ禍の学び

校長 山本一幸

2学期もまもなく折り返し点です。1年生と3年生のSDGsについての学習や2年生の職場体験に代わる学習、I J学級の校外学習等、コロナでできなくなったことに代わる新しい学びが動き出しています。これからも運動会に代わる各学年のスポーツ大会など、これまでとは違う、今できること、をやっていきます。感染防止のため、保護者の方に見ていただく空間的な余裕がないのは残念ですが、生徒たちは地道に前向きに生活しています。将来の夢が描きにくい状況だからこそ、夢に向かって必要なことを学ぶのとは反対に、今しなければならないこと、今できることを地道に続けることの中で夢が見つかることもある、ということを生徒たちの姿から教えられています。

☆ 生徒の様子 ☆

《道徳授業地区公開講座》

先月9月19日(土)に行われた各学年の道徳の授業の内容を掲載します。

【I J学級】I J学級は「自分自身を理解し、身のまわりの事を自分でできるようにする」というテーマで学びました。自分の生活を振り返るアンケートを実施し、それを基に改めて自分自身の課題を見つめ直しました。生徒たちの感想には「自分の生活を振り返って自分のできないことがみつかったのをそこを直せるようにしたい」「毎日の積み重ねはとても大切な事だと思った」などがありました。自分の身の回りの事を毎日自分で言い、習慣にしていくことの大切さについて意識して生活していけるといいと思います。



【1年】1年生は「生命の尊さ」をテーマにした道徳の授業でした。『文芸春秋』の1996年4月号に掲載された、沖縄県の首里高校に通う高校生、錦城幸(きんじょうみゆき)さんが自分の飼っていたヤギについて書いた作文を読んで考えました。ふだん食べているものの生命の尊さについて考え、多くの生徒が多くの生命によって自分たちの命は生かされていると感じることができました。

『生徒の授業の感想』

「自分が飼っていた動物を殺し、食べることはとても悲しいことだと思うが、生きるためには仕方のないことだと感じた。いつも僕たちが何気なく食べているものは生きているもの(命)で、重く感謝すべきものだと分かった。」

「店で食べたり、買ったり、食べ物は自分で育てたりしていないから、何も考えずに食べているけど、自分が育てた生き物を食べることになったら、申し訳なさを感じる。」

「私の命を繋いでくれている動物さん、魚さん、ありがとう。」

「生き物を食べるということは、命をもらうということなので感謝して食べようと改めて思いました。」

【2年】

2年生の道徳では、ホスピスでボランティアをする「私」が、患者さんとのふれあいから感じたことが綴られた文章を読み、命について考えました。

「私」は、余命わずかとなったがん患者の北村さんに本に載せるイラストの作成を依頼し、とても後悔します。しかし、真剣に依頼と向き合う北村さんと接することで、「ホスピスの患者さんと出会うことが嬉しい」と感じるようになります。

はじめは、「患者さんのお別れが悲しい」と感じていた「私」の考えがなぜ変化したのかという問いに、「一生懸命生きている姿を見て、勇気やパワーをもらった。」「お別れすることは悲しいけれど、残された時間を一生懸命に楽しく生きようとしている人に出会えることは、自分自身を成長させてくれると感じた。」などと考えることができました。

また、授業の感想として、「北村さんのように、最期まで精いっぱい生きたい。」「自分の生きた証になるものや思い出を残したい。」「北村さんが死を忘れているかのように最後の最後まで、前向きな気持ちでいたことをすごく誇りに思えた。命は、いつどうなるか分からないから、今生きていることを大切にして、毎日楽しく生きたい」という声が聞かれました。

人の命は限りあるものですが、最期の時まで、自分らしく生きること、人が亡くなってしまっても残されるものがあると感じることができました。

【3年】

～ あなたはすごい力で生まれてきた ～

3年生は出産という母子の命がけの共同作業で生命が引き継がれていくことを通して、自分にも生まれたときから自分を全うしようとする力が備わっていることを自覚させた。

『問いに対する生徒の意見』

問い「すごい力」とはどのようなものでしょう。

- ・自分の命と他の命を支える力
- ・どの生き物にも備わっている生きたいと訴えるような力
- ・大変なことを乗り越えていく力
- ・自分を全うしようとする力、愛の力
- ・命がけで生まれてきた力
- ・生きるため命を引き継ぐ力

問い あなたはこれから「いのち」とどのように向き合っていこうと思いますか。

- ・いのちを粗末にしないで親にも感謝しながら向き合っていこうと思う。
- ・自分の命もまた他の人の命も大切にしていきたい。
- ・生まれてこられなかった人達のみまでこの命を大切にこれからずっと生きていきたい。
- ・自分らしく一生懸命に生きていこうと思った。

<振り返り>

- ・命は一つだけど多くの人に関わっていることを改めて感じた。
- ・命の重みを再確認した。
- ・お母さんに改めて感謝します。この「いのち」があるのは幸せということが改めて分かった。
- ・生まれてくる事ができなかった子のことを考えるとこれからも命を大切にしていこうと思った。

北多摩読書感想文コンクール 〈佳作〉

『11番目の取引』を読んで	3年B組
「オイラーの等式」	3年E組
「小さい背中の中にもつ」	3年C組
「一生忘れない友達」	2年C組
「平和のバトン」	1年F組